

盛田家文書目録

序 文

ここに当家の古文書目録上巻が刊行の運びとなりましたことは、私の最も喜びとするところであります。

現代日本の社会を考えますとき、今の日本には過去の歴史上に全く経験したことのない諸問題がよこたわっているのであります。すなわち、経済成長と共に国民の要求が極めて多様化してきて、適切な対応が必要となってきたこと、或いは海外諸国との間の国際協調を積極的に推進する必要に迫られていること等々の種々、問題を解決してゆかなければならない現実に直面しております。わが国が歴史的には近世の長い鎖国を経たにもかかわらず、明治以降急速に先進工業諸国に互することを得た原動力が、徳川時代の社会経済文化を創りあげた国民の能力資質にあると認識することは、最も肝要であると考えます。わが国の近世近代の学術の研究振興に対する考え方の基盤はそこにあるのであって、今や過去の歴史社会を適確に認識することは、今後のわが国政治経済社会の発展にとって極めて重要であるといえましょう。

さて、私の生家盛田家は、代々、久左衛門を名乗り、私が十五代の当主に当たる古い家系です。

尾張国知多半島の寒村、小鈴ヶ谷村で代々庄屋をつとめて参りました。

家業として、酒、味噌、醤油の醸造を江戸時代のなかばより営んで来ました。いわゆる造り酒屋で、「子乃日松」と銘じた酒を作り、古い酒蔵や味噌蔵が現存しております。

古い屋敷の一隅に数棟の土蔵が建てられており、その中に祖先代々の残した古文書がぎっしり収まっておりました。

もう七、八年前のことになりますが、このような古文書に興味をもっておられます聖心女子大学の目崎徳衛教授に、これらの一部をお目にかけてところ、この古文書類は、江戸時代から明治維新までの庄屋としての記録が、家業の帳簿伝票とともに大量に保存されていることが分かりました。代々の当主がそれらの文書を几帳面に保管し続けてきたのだと思います。この機会に、私はこれらの古文書を史学の研究者の方々へ参考資料として公開してゆきたいと考えました。

そこで、これらの古文書を本格的に整理して広く公開できるように、先の目崎徳衛教授のご協力を仰ぎ、聖心女子大学史学研究室の方々のお力添えをお願いすることに致しました。

一方、これを契機として、我が国の近世近代の歴史に関する研究の振興助成を図るため、財団法人の設立を計画し、昭和53年11月に鈴浜学術財団が発足致しました。

当財団は、この分野の研究活動に対する研究助成、すぐれた研究業績に対する褒賞、調査研究ならびに資料の収集、刊行公開、講演会研究会の開催その他を事業内容として、既に活発な活動を行っております。その運営には、郷土出身の大先輩、谷川徹三先生（当財団理事長、芸術院会員）を始め多くの方々のご指導を仰いで、着々と業績を挙げて参りました。又、当財団においては、内外各界の人々と意見交換の機会を通じて、その時代と現代及び将来の日本の関連を明らかにして、未来社会への展望に資することを目標としているのであります。

今日、多くの方々のご支援をいただき、この古文書目録が財団より刊行されましたことは、誠に喜びにたえません。この史料が広く学界の研究者により活用されることを切望する次第です。

終わりに、この古文書の分類作業と目録編集に直接指導をいただきました聖心女子大学の高牧實教授と、同大学史学研究室の方々に対し、厚く御礼申し上げるものであります。

鈴溪学術財団理事

ソニー株式会社社長

盛田昭夫